

## 令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県央会場

#### 科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ ニュースで取り上げられている虐待や貧困など、子どもたちを取り巻く環境はとても厳しいと感じていましたが、秋田県内でも以外に多いのだと気付かされました。それも年々増え続けているということはとても悲しいことです。学校や学童保育、それに地域の方々の目で見守ることの大切さを感じました。また、保護者の悩みや意見があれば、一緒に考え、子どもがのびのびと成長できるように支援していきたいです。
- ◆ 子どもや保護者の小さな変化を見逃さず、気付いたときには職員間での情報共有や関係機関との連携を図っていきたいです。また、貧困の現状や対策について学び、貧困の見えづらさから支援を求めづらい、求めようと思わないと考える懸念があることを知りました。虐待や貧困で支援が必要な子どもに気付いたら、適切な対応をとり、助けることができればと思います。
- ◆ 子どもの虐待の早期発見や防止のためには、放課後児童クラブも情報提供や見守り、児童の様子への気付きなどで重要な役割を果たすことができると分かりました。また、目に見えない・見えてきにくい相対的貧困は増えており、ひとり親家庭や母子家庭で特に顕著であることも分かりました。以前の講義で地域の包括的な子育ての必要性を学びましたが、貧困についても同様の対処が必要なのだと思います。
- ◆ 日本は国民に教育が行き届く豊かな国であると思っていただけに、子どもの貧困率の高さを聞いてショックを受けました。「子どもの現在及び将来が、生まれ育った環境に左右されることのないように」という法律の文言が心に残りました。放課後児童支援員として、保護者や子どもの生活を継続して支えるためにも、「傾聴と受容」、「見る」、「見守り」に心を配ることや児童虐待について見落としがないように情報のアンテナを高くしていきたいと思いました。
- ◆ 「相対的貧困」という言葉を初めて聞きました。社会で普通とされる生活が難しく、周囲からは見えないことや、塾に行きたくても行けなくて進学を諦めたり、学用品を買えない人は学力が低下し、将来的に就職しても低賃金で生活を余儀なくされる等、貧困家庭の連鎖が続いていくという問題が生じているということが分かりました。それぞれの家庭にどんな事情があっても、生まれ育った環境によって子どもの将来が閉ざされることがあってはならないと思いました。そして、早期の発見と切れ目のない支援が大切であり、ライフステージに沿った支援が提供される体制がもっと整備されていかなければならないと思いました。